

エタネルセプトBS皮下注「日医工」 によるリウマチ治療をはじめめる 患者さんにご家族の方へ



監修

新宿南リウマチ膠原病クリニック
世田谷リウマチ膠原病クリニック
東信よしだ内科・リウマチ科

統括院長 **吉田 智彦** 先生

新宿南リウマチ膠原病クリニック

チーフ **紀平 瑞希** 先生
リウマチケア看護師

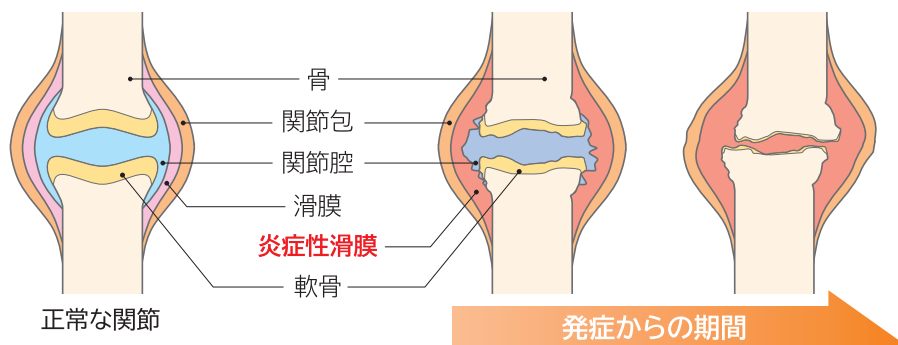
関節リウマチとは

関節リウマチは、30～50歳代の女性に発症することが多く、関節に炎症が起こり腫れや痛みが生じる全身性の慢性疾患です。

症状は手や足をはじめとする全身のさまざまな関節の腫れや痛み、朝起きたときに関節が動かしづらい（朝のこわばり）などがあります。また、疲れやすい、体がだるい、微熱が出る、貧血など関節以外にも症状があらわれることがあります。

関節の症状 : 関節の腫れ・痛み、朝のこわばり など
関節以外の症状 : 疲れやすい、体がだるい、微熱、貧血 など

関節リウマチでは、関節を包んでいる滑膜に炎症が起こります。この炎症が長期間続くと、骨や軟骨が徐々に破壊され、関節の変形や破壊を来します。



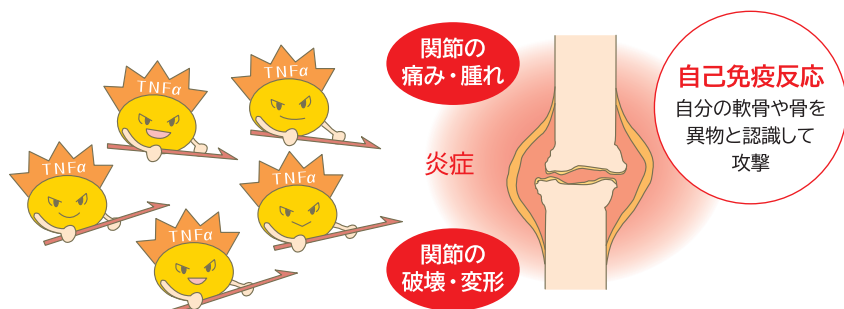
原因

身体には細菌やウイルスなどから身体を守る「免疫」というしくみがあります。関節リウマチでは、この免疫に何らかの異常が起こり、本来、細菌やウイルスなどの病原体にはたらくサイトカインという物質が異常に増加し、自分自身の関節の組織を異物と間違えて攻撃することで関節に炎症が生じます。関節リウマチではTNF α （ティー・エヌ・エフ・アルファ）というサイトカインが過剰につくられます。TNF α は関節滑膜の異常な増殖と局所の炎症を増強するサイトカインで、関節の炎症、変形・破壊を引き起こす原因となっています。

免疫機能が正常な人
正常な量のTNF α



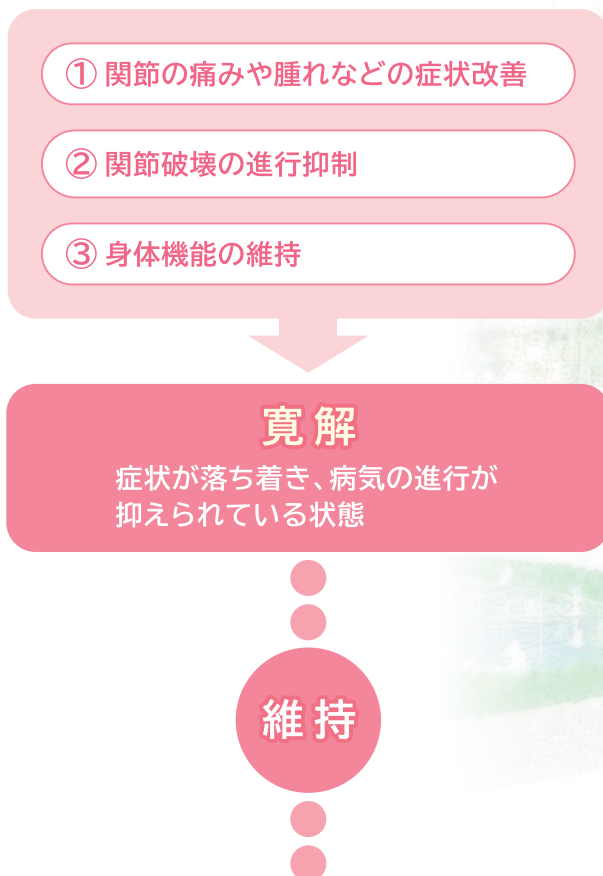
関節リウマチの患者さん
異常に増加したTNF α により炎症が起こる



※イラストはイメージです。

治療目標

関節リウマチの治療は、関節の痛みや腫れを改善するだけでなく、病気の進行を抑えて、その状態を維持することが目標になります。



薬物治療

関節リウマチの治療には、①関節の痛みや腫れなどの症状改善、②関節破壊の進行抑制、③身体機能の維持という目標があります。関節の破壊は、関節リウマチの発症後の数年間に最も進行する場合が多いことから、近年、早期から抗リウマチ薬や生物学的製剤(バイオ医薬品)が用いられるようになって来ました。また、炎症や痛みを抑えるために、非ステロイド性消炎鎮痛剤やステロイドなども補助的に用いられます。

エタネルセプトBS皮下注「日医工」は生物学的製剤に分類されます。

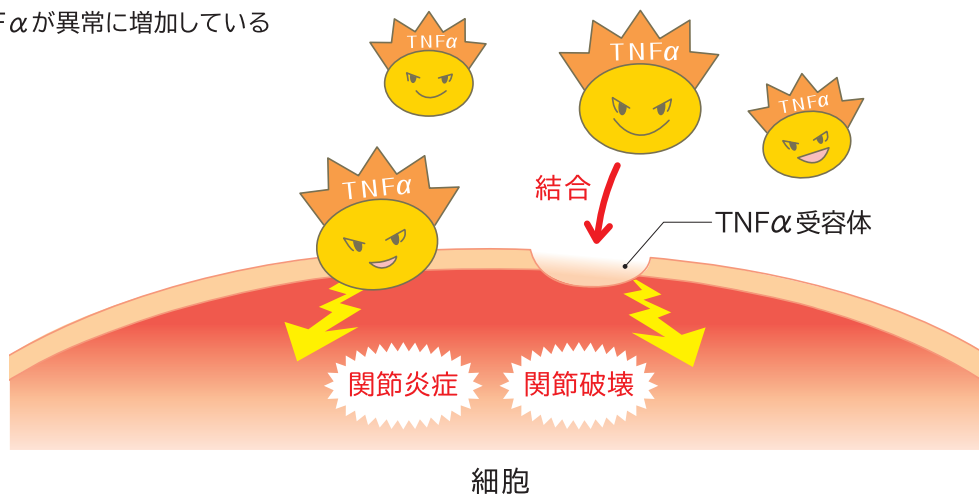
抗リウマチ薬	免疫異常を改善し、病気の進行を抑えます。
バイオ医薬品 (生物学的製剤)	炎症の悪化や関節の破壊を促進するサイトカイン(TNF α など)を抑制します。
ステロイド	強力な抗炎症作用と免疫抑制作用があります。
非ステロイド性 消炎鎮痛剤	炎症や痛みを抑えます。
抗RANKL 抗体製剤	骨びらん(骨の破壊)の進行を抑えます。

エタネルセプトBS皮下注「日医工」の作用

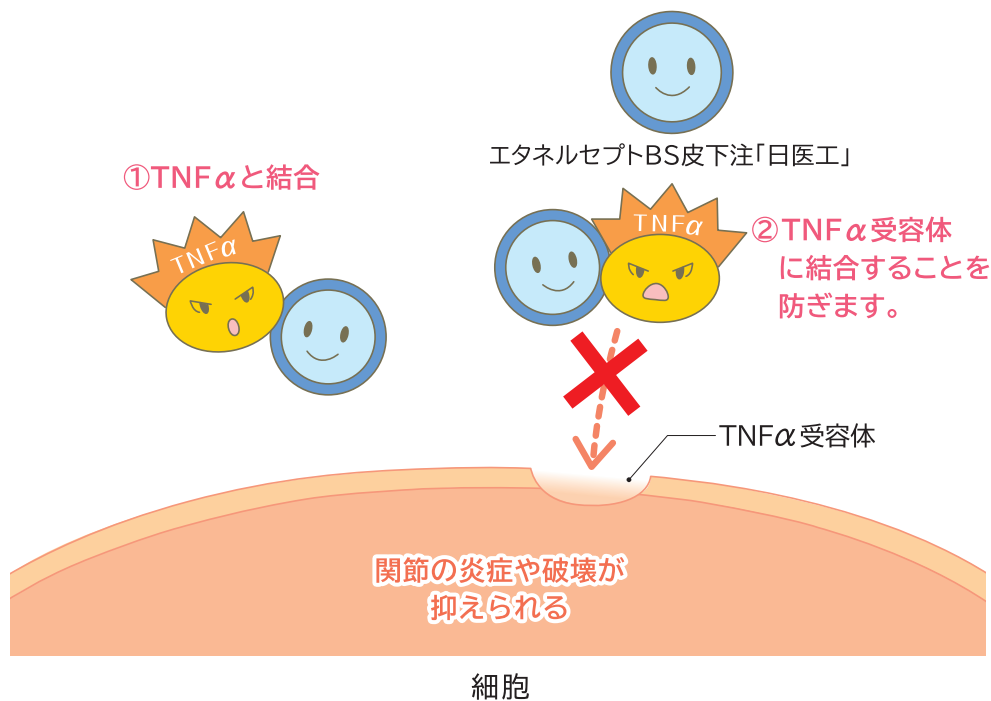
エタネルセプトBS皮下注「日医工」は過剰につくられたTNF α と結合することで、TNF α が細胞表面のTNF α 受容体と結合することを防ぎます。その結果TNF α の炎症への働きを抑え、関節リウマチの腫れや痛みを改善し、関節の変形・破壊の進行を防ぎます。

関節リウマチの患者さん

TNF α が異常に増加している



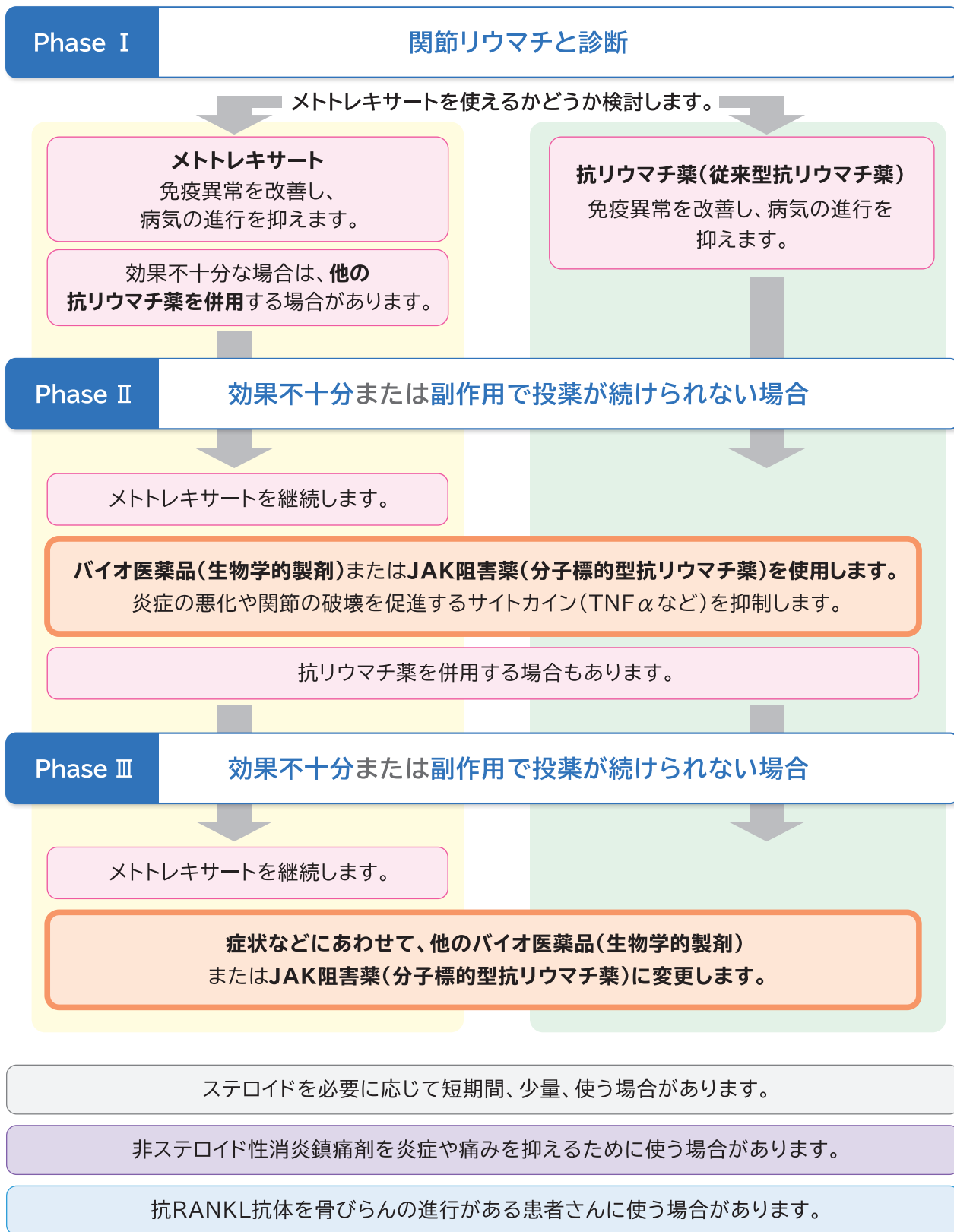
エタネルセプトBS皮下注「日医工」の作用



※イラストはイメージです。

関節リウマチ治療アルゴリズム

リウマチ治療の中心は、抗リウマチ薬、バイオ医薬品(生物学的製剤)、JAK阻害薬(分子標的型抗リウマチ薬)の投与です。この3種類のお薬をどの時点でどのように投与するか、患者さんの状態(他の病気があるか、アレルギーがあるか等々)を総合的に判断して治療の流れを決めることが重要になります。



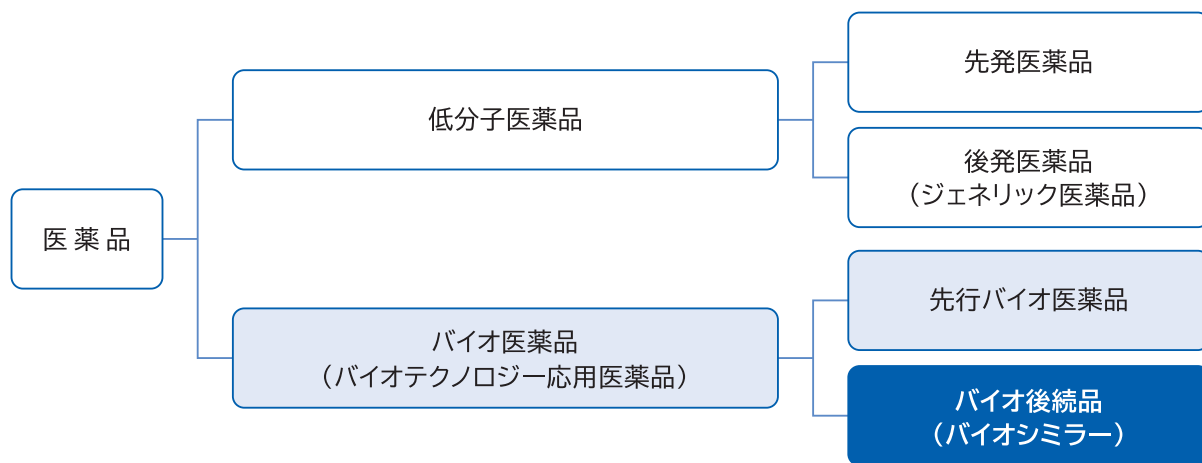
「関節リウマチ診療ガイドライン2020薬物治療アルゴリズム」を参考に作成

バイオ医薬品は、細胞や微生物などの生物の力を利用してつくられる、タンパク質を有効成分とするお薬です。これまで治療が難しかった病気にも効果が期待されています。

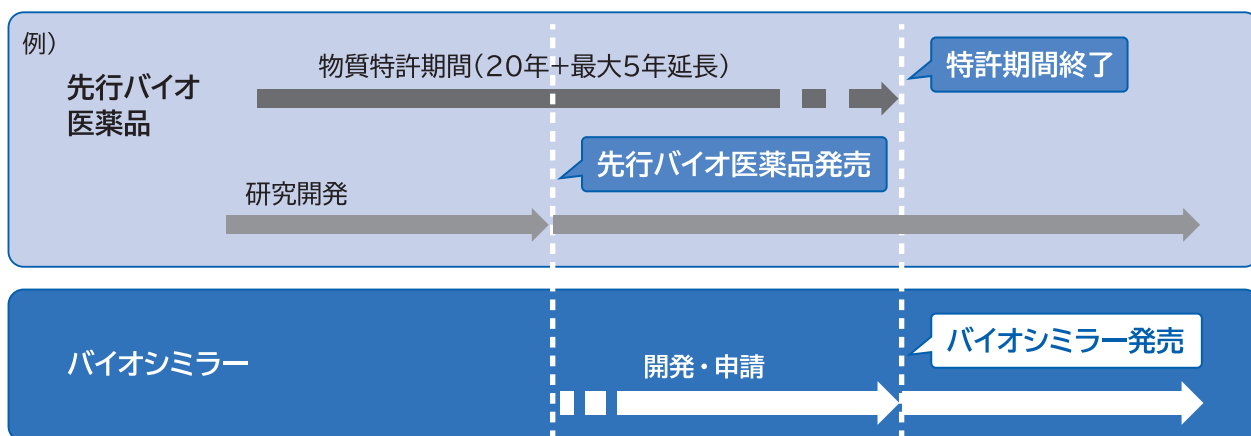
バイオシミラーというお薬

バイオシミラーとは

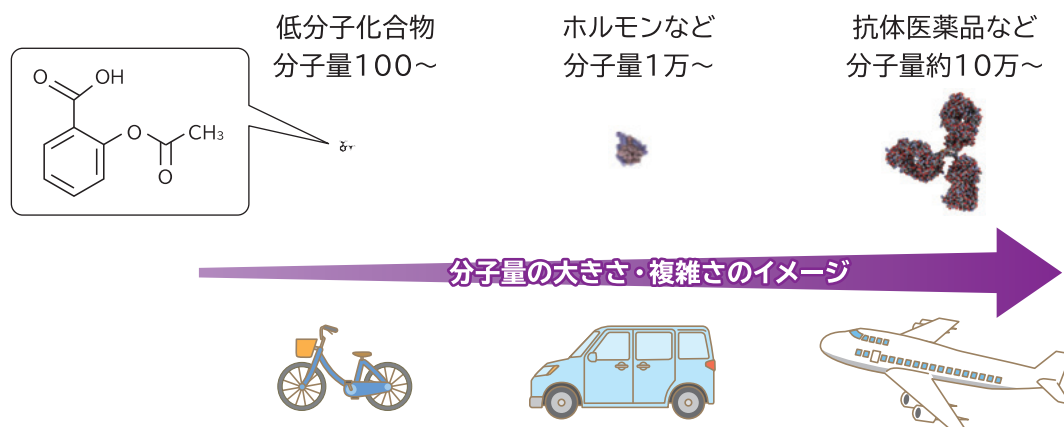
バイオ医薬品は複雑な分子構造のタンパク質を有効成分とする医薬品です。バイオシミラーとは、すでに新薬として承認されているバイオ医薬品と同等/同質の医薬品で、バイオ後続品とも呼ばれています。エタネルセプトBS皮下注「日医工」はバイオシミラーです。



バイオシミラーは、特許が切れた後に発売される医薬品として、ジェネリック医薬品と同様の位置づけです。



バイオ医薬品は、分子量が大きく複雑な構造をもつため、非常に高い製造コストがかかります。

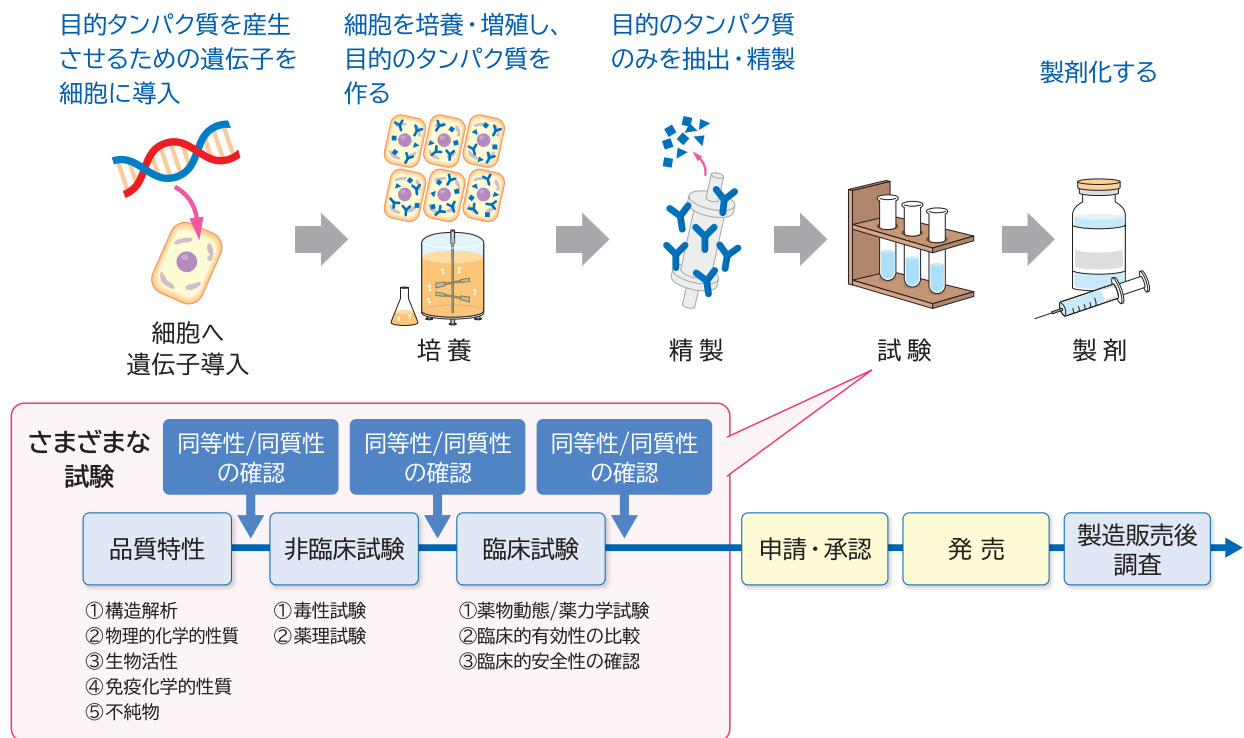


バイオシミラーの同等性/同質性の評価

バイオ医薬品は複雑な分子構造のため特有の工程を用いて製造されます。バイオシミラーは、その先行バイオ医薬品と高い類似性を持った医薬品です。先行バイオ医薬品との違いが有効性や安全性に影響しないことを、国で定められた様々な試験を行って確認しています。

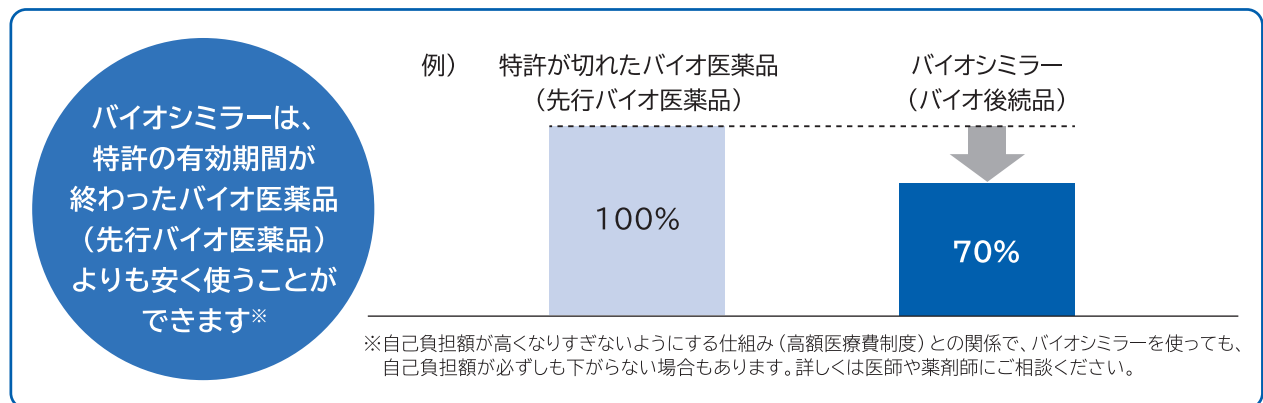
先行バイオ医薬品とバイオシミラーの同等性/同質性の評価は、先行バイオ医薬品が製造工程を変更する場合における、変更前後の製品の同等性/同質性の評価と同じガイドラインで評価されます。

また、臨床試験の情報は限られていることから、日常診療下における安全性等について、製造販売後も調査を行っています。



バイオシミラーの価格

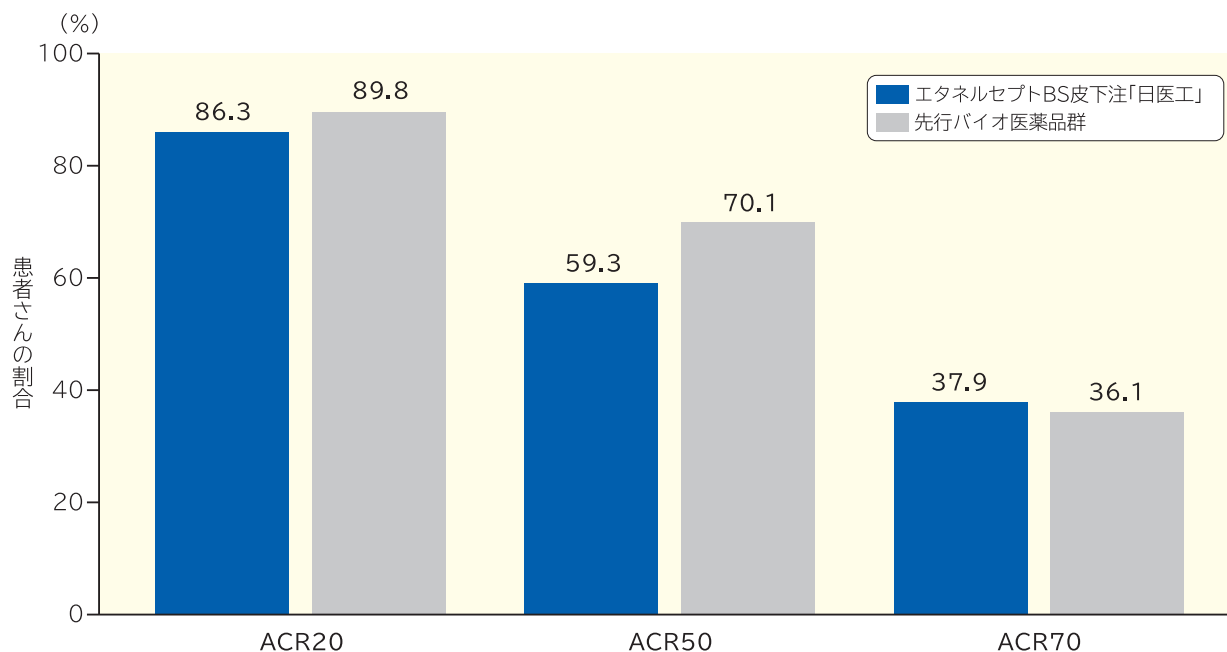
バイオ医薬品は開発や製造にコストがかかるため高価になります。バイオシミラーの価格は原則として先行バイオ医薬品の約7割とされています。バイオシミラーは医療費や、患者さん・ご家族の経済的負担の軽減につながることを期待されています。



エタネルセプトBS皮下注「日医工」の有効性

エタネルセプトBS皮下注「日医工」は関節リウマチ患者を対象とした臨床試験において先行バイオ医薬品と同等の有効性を示すことが確認されています。

投与開始から24週のACR20/50/70改善率



※海外および日本人でエタネルセプトBS皮下注「日医工」と先行バイオ医薬品を50mg投与で治療をおこなった患者さんのデータです。

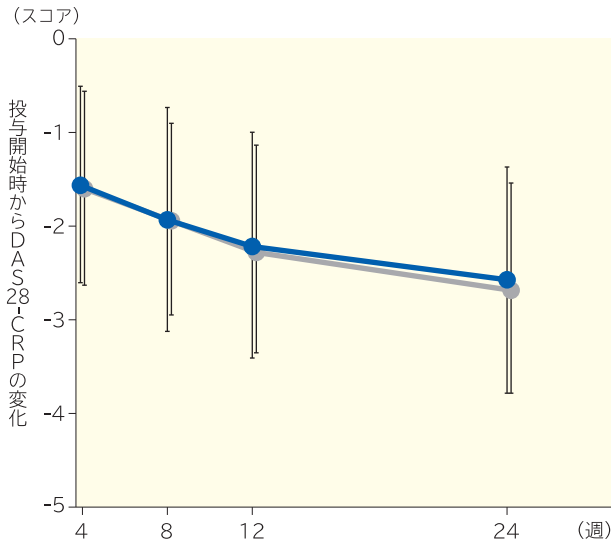
ACR改善率とは

関節の痛みや状態などの複数の項目で、治療前より20%(50%、70%)の改善を達成した割合のことです。治療効果を評価する指標の一つです。

項目	ACR基準 20%以上改善	ACR基準 50%以上改善	ACR基準 70%以上改善
1. 押さえたときに痛みのある関節の数	2項目とも 20%以上改善	2項目とも 50%以上改善	2項目とも 70%以上改善
2. 炎症などにより腫れあがる関節の数			
3. 患者さんによる痛みの評価	5項目中3項目が 20%以上改善	5項目中3項目が 50%以上改善	5項目中3項目が 70%以上改善
4. 患者さんによる体調の評価			
5. 医師による患者さんの体調の評価			
6. 患者さんによる日常動作(身支度、食事など)の評価			
7. 血液検査による炎症の程度			

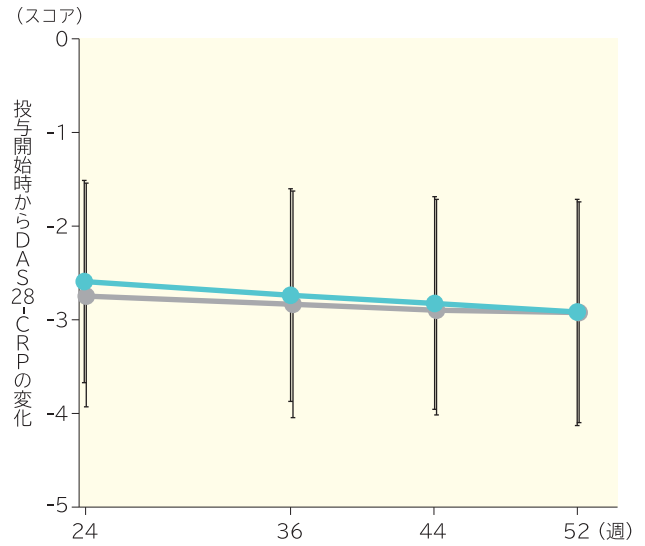
継続投与患者さんの効果の推移

投与開始～24週



● エタネルセプトBS皮下注「日医工」を投与した患者さん
● 先行バイオ医薬品を投与した患者さん

24週～52週



● エタネルセプトBS皮下注「日医工」を投与した患者さん
● 先行バイオ医薬品を投与した患者さん

エタネルセプトBS皮下注「日医工」：エタネルセプト（遺伝子組換え）〔エタネルセプト後続2〕注射液
先行バイオ医薬品：Enbrel®（欧州で承認されたエタネルセプト（遺伝子組み換え）製剤）
日医工株式会社 社内資料：国際共同第Ⅲ相試験

DAS28とは

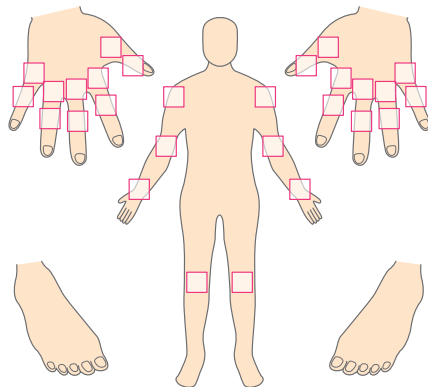
28関節の痛みや腫れなどを観察し、ESRまたはCRPを評価し、数値化する指標です。数値が大きいほど疾患の活動性が高く、低いほど安定している状態です。治療前後の値と比較することで、治療効果の評価することができます。

[DAS28の指標と疾患活動性の評価]

- 圧痛関節数
押さえたときに痛みのある関節数
- 腫脹関節数
炎症などにより腫れのある関節数
- ESR：赤血球沈降速度（赤沈）
血液検査による炎症の程度
- CRP：C反応蛋白
血液検査による炎症の程度
- 患者の全体評価
患者さんによる体調の評価

ESRとCRPでは、計算式と評価の基準が異なります。

[DAS28の対象関節]



[DAS28の疾患活動性の評価]

活動性	DAS28-ESR	DAS28-CRP
寛解	<2.6	<2.3
低疾患活動性	≤3.2	≤2.7
中等度疾患活動性	3.2<かつ≤5.1	2.7<かつ≤4.1
高疾患活動性	>5.1	>4.1

エタネルセプトBS皮下注「日医工」治療の流れ

エタネルセプトBS皮下注「日医工」の投与に関して、医師により検討されます。

自己投与の適用については、十分な教育訓練と、患者さん自ら確実な投与ができることの確認が必要です。また、適用後の感染症や副作用が疑われる場合等、エタネルセプトBS皮下注「日医工」の危険性と対処法について患者さんに理解して頂くことが大切になります。

自己投与までの流れ

1

【診断】

問診、検査（感染症、B型肝炎ウイルス、肺炎、結核など）

2

【投与】

院内にてエタネルセプトBS皮下注「日医工」を通院で注射を開始（週1回または週2回の通院）

3

【説明】

主治医からエタネルセプトBS皮下注「日医工」の自己注射について説明を受ける

4

【確認】

患者さんの自己注射への移行の希望を確認する

5

自己注射を希望しない場合

【継続】

院内にてエタネルセプトBS皮下注「日医工」を通院で注射を継続（週1回または週2回の通院）

5

自己注射を希望する場合

【練習】

院内にて自己注射トレーニングを開始

6

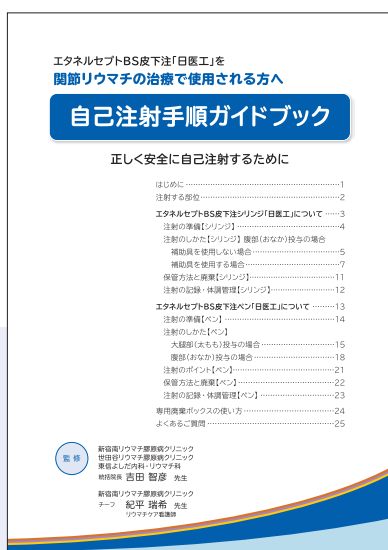
【確認】

自己注射手順を習得

7

【投与】院外処方にて

エタネルセプトBS皮下注「日医工」の自己注射を開始



自己注射の適正な実施にお役立てください。

※自己注射とは患者さんご自身やご家族によって行われる注射のことです。

治療を始める前に

エタネルセプトBS皮下注「日医工」をより安全に使用していただくために、次のような検査を受けていただきます。

問診

- 現在、服用中のお薬がある方
- 関節リウマチ以外の病気がある方
- 以前にお薬で、かゆみや発疹などのアレルギー症状が出たことのある方
- これまでに生物学的製剤の治療を受けたことのある方
- 次の病気にかかったことのある方
 - ・ 結核にかかったことがある方、または身の回りに結核の方がいる方
 - ・ 感染症（敗血症、肺炎など）
 - ・ 感染症にかかりやすい状態（糖尿病、免疫抑制剤や抗がん剤を投与中など）
 - ・ うっ血性心不全
 - ・ 脱髄疾患（多発性硬化症、視神経炎、横断性脊髄炎など）
 - ・ 重篤な血液疾患（汎血球減少、再生不良性貧血など）
 - ・ 悪性腫瘍
 - ・ 肝炎（特にB型肝炎）
 - ・ 間質性肺炎
- これまでに予防接種を受けたことのある方、または受ける予定のある方
- 現在、発熱や、咳、のどの痛みなどの症状がある方
- 現在、妊娠または妊娠している可能性のある方、授乳中の方

血液検査

感染症に関する主な検査

- 白血球数
- リンパ球数
- CRP（C反応蛋白）

など

B型肝炎に対する主な検査

- B型肝炎ウイルス

肺炎などの主な検査

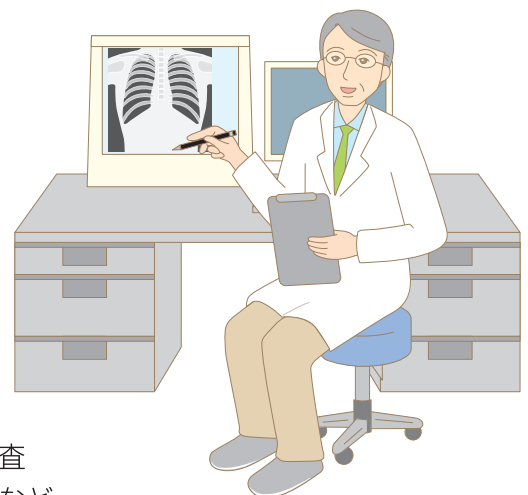
- ^{ベータ}β-Dグルカン
- KL-6

など

結核スクリーニング検査

- 胸部X線検査、胸部CT検査
- インターフェロン-^{ガンマ}γ遊離試験又はツベルクリン反応検査

など



エタネルセプトBS皮下注「日医工」の副作用

治療中に注意すること

副作用は早期に発見し適切な治療を行えば、重症化することを防ぐことができます。そのために、以下のことに注意してください。

- ・エタネルセプトBS皮下注「日医工」で起こる可能性のある副作用や症状について知っておいてください。
- ・定期的に診察・検査を受けてください。
- ・次のような症状が出た場合や体調の異常を感じた場合は、次の診察日を待たずに主治医に相談してください。

●発熱



●咳



●のどの痛み



●息苦しい



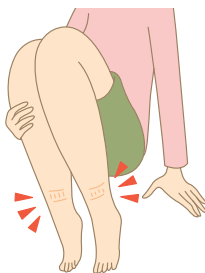
●身体がだるい



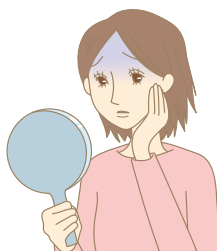
●全身に発赤が出る



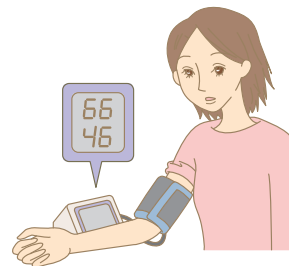
●身体がむくむ



●顔色が青白くなる



●血圧が下がる



(1) 感染症の発現

エタネルセプトBS皮下注「日医工」は、免疫反応を調節する物質の作用を抑えるので、感染症にかかりやすくなる場合があります。投与により、結核、敗血症、肺炎、日和見感染症などの感染症にかかりやすくなったり、今までにかかっている感染症が悪化したりすることがあります。

エタネルセプトBS皮下注「日医工」による治療中に風邪のような症状、発熱、からだがだるい、持続するような咳など普通と違う症状が発現した場合は、すぐに主治医に相談してください。

これまでに結核を患った方、身の回りに結核を患った方がいる方、または結核の感染が疑われる方は必ず申し出てください。

(2) 脱髄疾患

エタネルセプトBS皮下注「日医工」の投与により脱髄疾患（多発性硬化症、視神経炎、横断性脊髄炎、ギラン・バレー症候群など）が発生したり悪化したりすることがあります。

エタネルセプトBS皮下注「日医工」による治療中に、まひ、顔や手足の異常な感覚、見えにくい、考えがまとまらないなどの症状があらわれた場合は、すぐに主治医に相談してください。

現在、脱髄疾患の治療中の方、これまでに脱髄疾患を患った方、またはご家族に脱髄疾患を患った方のいる方は必ず申し出てください。

(3) アレルギー反応

エタネルセプトBS皮下注「日医工」投与時及び投与終了後に、アレルギー反応があらわれた場合は、ただちに主治医に相談してください。

また、重篤な症状以外でも注射した部分に腫れやかゆみ、痛みを伴う赤み、内出血などがあらわれることがあります。

以前にお薬や食べ物でかゆみや発疹、息苦しい、考えがまとまらないなどのアレルギー症状のでたことのある方は必ず申し出てください。

エタネルセプトBS皮下注「日医工」の副作用

(4) 血液障害

発熱、寒気、喉の痛み、鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい、頭が重い、動悸、息切れなどの症状があらわれた場合は、すぐに主治医に相談してください。

(5) 間質性肺炎

咳、息切れ、息苦しい、発熱などの症状があらわれた場合は、すぐに主治医に相談してください。また、これまでに間質性肺炎を患ったことのある方は主治医に必ず申し出てください。

(6) ループス様症候群

抗dsDNA抗体が陽性化し、関節の痛み、筋肉痛、皮疹などの症状があらわれることがあります。このような場合は、すぐに主治医に相談してください。

(7) 肝機能障害

疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振、白目や皮膚が黄色くなる、赤褐色尿などの症状があらわれた場合はすぐに主治医に相談してください。

(8) 中毒性表皮壊死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis: TEN)、皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson症候群)、多形紅斑

中毒性表皮壊死融解症は、皮膚が広い範囲で赤くなったり、破れやすい水ぶくれが多発したり、発熱、粘膜のただれなどがあらわれた場合はすぐに主治医に相談してください。

皮膚粘膜眼症候群は、発熱、目の充血やただれ、唇の口内のただれなどの症状があらわれた場合はすぐに主治医に相談してください。

多形紅斑は、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発するなどの症状があらわれた場合はすぐに主治医に相談してください。

(9) 抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 陽性血管炎

血管に炎症を起こす病で、血尿、鼻水、鼻づまり、咳、喉の痛み、発熱、皮下出血によるあざ、皮膚の潰瘍などの症状があらわれた場合はすぐに主治医に相談してください。

(10)急性腎障害、ネフローゼ症候群

腎臓の機能が低下することにより、尿量が減る、むくみ、体がだるい、排尿時の尿の泡立ちが強いなどの症状があらわれた場合はすぐに主治医に相談してください。

(11)心不全

心臓が十分な血液を送り出せなくなるにより、息切れ、疲れやすい、むくみなどの症状があらわれることがあります。すぐに主治医に相談してください。

(12)悪性腫瘍の発現の可能性

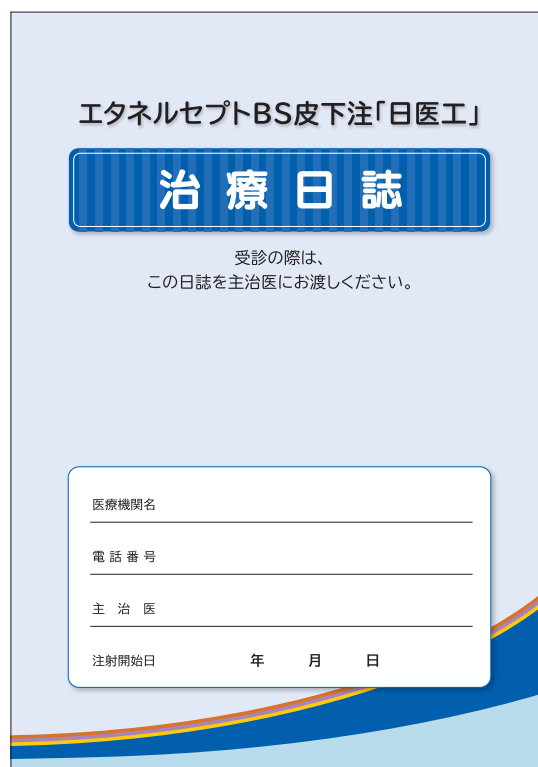
エタネルセプトBS皮下注「日医工」との因果関係は不明ですが、悪性腫瘍があらわれる可能性があります。

(13)乾癬の悪化・発現

エタネルセプトBS皮下注「日医工」の投与により、乾癬が発現したり、または、悪化するなどの症状があらわれた場合はすぐに主治医に相談してください。

関節リウマチという病気とエタネルセプトBS皮下注「日医工」というお薬について説明しています。

投与中の体調管理については、以下の資料をご活用ください。



※表紙のデザインは変更となる場合がございます。

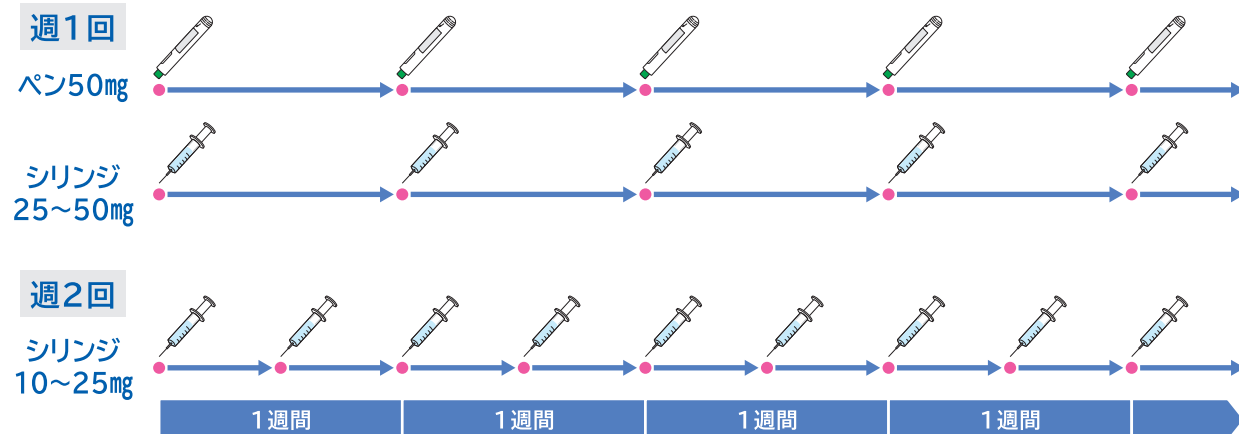
エタネルセプトBS皮下注「日医工」の投与のしかた

1 用法・用量

使用量や投与回数は、症状などにあわせて、主治医が決めます。

他のエタネルセプト製剤から切り替えて投与する場合は、その時点の症状などにあわせて、エタネルセプトBS皮下注「日医工」の使用量と投与回数を主治医が決めます。

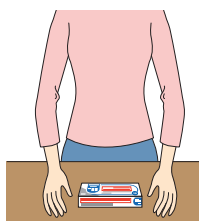
【関節リウマチ】



2 本剤の投与方法

1. 投与経路

皮下にのみ投与してください。

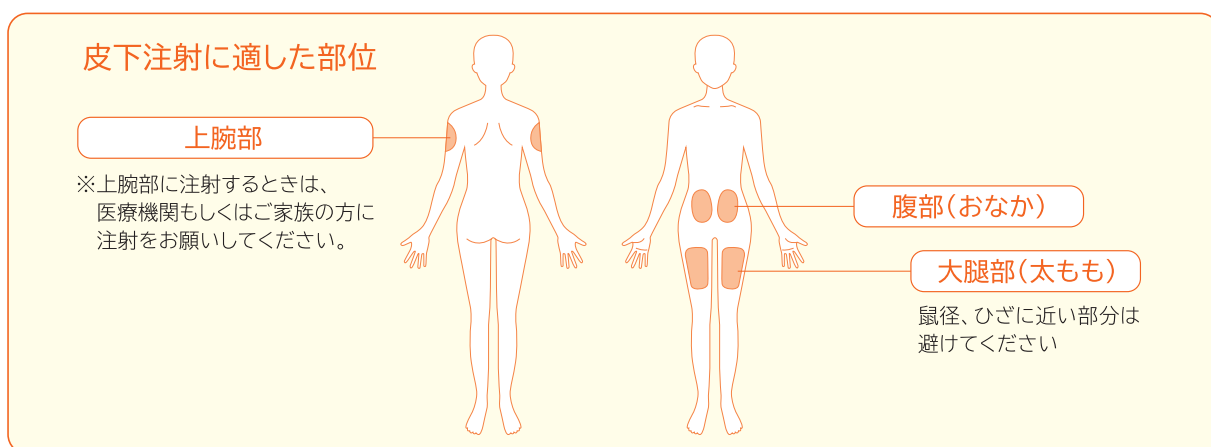


2. 投与前

注射する15~30分前に室温に戻します。

3. 投与时

- 1) 注射する部位はおなか、太もも、上腕部です。
- 2) 赤くなっていたり、傷があったり、硬くなっているなど皮膚に異常がある場所に注射しないでください。前回注射した部位と違う部位に注射してください。同じ部位に注射する場合には、前回の場所より少なくとも3cm以上離してください。



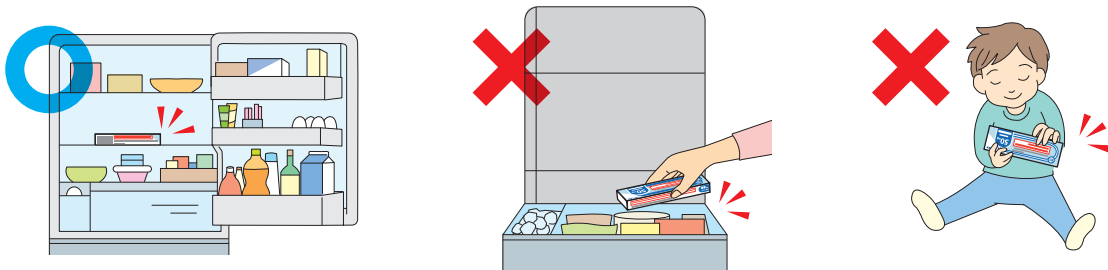
エタネルセプトBS皮下注「日医工」を関節リウマチの治療で使用される方へ 自己注射手順ガイドブック

4. その他

本剤は、1回使用の製剤ですので再使用しないでください。

3 本剤の保存方法

- 医療機関で受け取ったエタネルセプトBS皮下注「日医工」は箱ごと必ず冷蔵庫に保管してください。（専用の遮光袋に入れて冷蔵庫に保管してもよいです。）
- 冷凍庫には保管しないでください。
- 凍結の恐れがあるので、チルド室や冷気の吹き出し口の近くに置かないでください。
- 直射日光のあたる場所に放置しないでください。
- お子様の手の届かないところに保管してください。
- ご家族の方にもお薬であることを説明し、ご家族が誤って開封したり、汚したり、捨てたりしないでください。
- 病院からの運搬時や外出時には、保冷バッグを使用してください。



4 自己投与について

- 自己投与については、主治医が慎重に検討した上で、以下の項目に従い実施します。

- 十分な教育訓練を実施する。
- 本剤投与による危険性と対処法について患者さんが理解し、患者さん自ら確実に投与できることを確認する。
- 医師の管理指導のもとで実施する。

- 投与開始後、次の場合は直ちに主治医に相談してください。早く発見して早期に適切な処置をおこなうことで副作用が重症化することを防ぎます。

- 感染症など本剤による副作用が疑われる場合。
- 自己投与の継続が困難な状況となる可能性がある場合。

- 使い終わった注射器は、感染性廃棄物です。家庭用ゴミとして捨てることはできません。取扱いに十分注意して、すみやかに廃棄ボックスに入れます。



廃棄ボックス



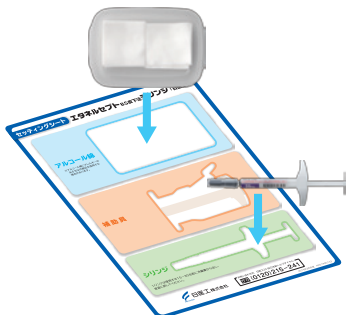
廃棄袋

※廃棄袋は、エタネルセプトBSペン専用です。

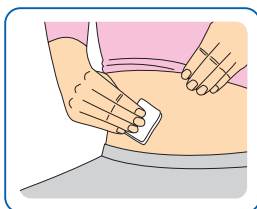
自己注射のしかた(シリンジ)

おなか投与の場合 ※太もも投与の場合もあります。

- 1 室温に戻したシリンジとアルコール綿をセッティングシートの上に置きます。

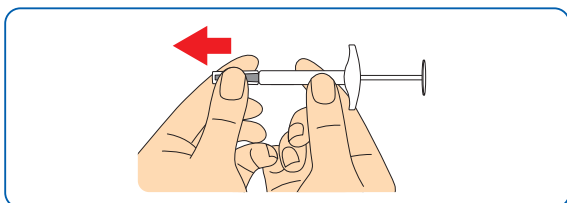


- 2 アルコール綿で注射する部位とその周辺を広めに消毒します。



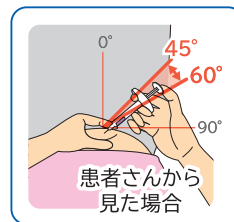
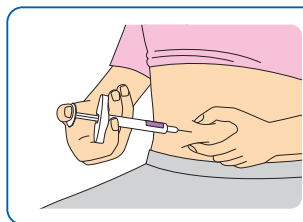
- 注射するまで消毒した部位に手を触れないよう注意してください。

- 3 針キャップをまっすぐに横に引っ張って外します。



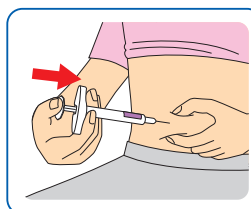
- 内筒を引っ張ったり、押したりしないでください。
- 針キャップを斜めに外さないでください。(針が曲がる場合があります。)
- 針に手や他のものが触れないようにしてください。
- 薬液が1、2滴漏れることがありますが差し支えありません。
- シリンジ内に多少の気泡が残っていても、皮下注射なので差し支えありません。

- 4 注射針を刺します。



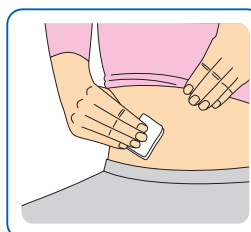
- 消毒した部位の皮膚をしっかりとつまんで、注射針を45～60°の角度で刺します。

- 5 薬液を注射します。



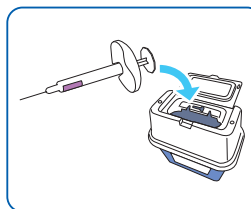
- シリンジをしっかり持ち、注射針を刺した時と同じ角度のまま、ゆっくりと内筒を最後まで押し切ります。

- 6 注射針を抜いて、アルコール綿で約10秒ほど押さえます。

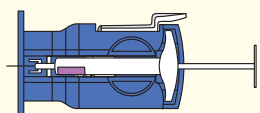


- 注射針を刺した時と同じ角度のまま、注射針を皮膚から抜きます。
- 注射部位をもむと腫れることがありますので、もまないようにしてください。
- 腫れや出血が収まらない場合は、主治医にご連絡ください。

- 7 注射終了後、シリンジを廃棄します。



- 使い終わったシリンジは、分解したり、再利用せずに、取り扱いに十分注意して、すみやかに廃棄ボックスに入れます。

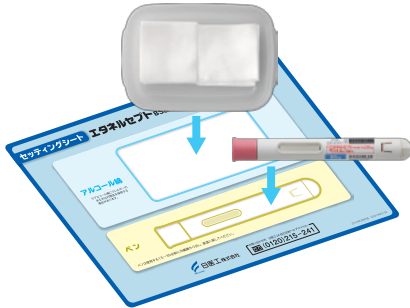


補助具を使用して注射をすることもできます。

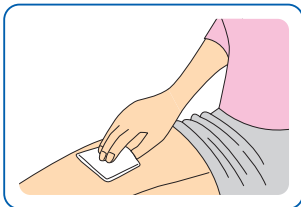
自己注射のしかた(ペン)

太もも投与の場合 ※おなか投与の場合もあります。

- 1** 室温に戻したペンとアルコール綿をセッティングシートの上に置きます。

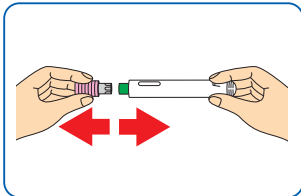


- 2** アルコール綿で注射する部位とその周辺を広めに消毒します。



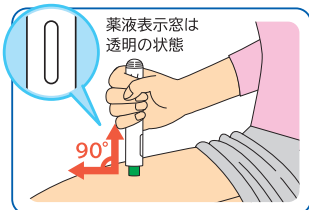
- 注射するまで消毒した部位に手を触れないよう注意してください。

- 3** キャップをまっすぐに引き抜きます



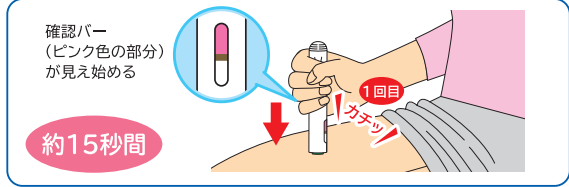
- 取り外したキャップは再度ペンに取り付けないでください。
- 先端部のキャップを外したらすぐに注射を始めてください。

- 4** ペンの緑色の先端を皮膚に直角(90°)に押し当てます。



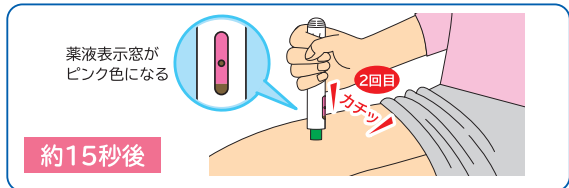
- ペンの薬液表示窓を自分側に向ければ、薬液表示窓を確認しながら注射することができます。

- 5** ペンの緑色の先端を十分に押し込み、「カチッ」と音がしてから約15秒間そのまま待ちます。



- 1回目の「カチッ」の音で注射が始まります。約15秒後、2回目の「カチッ」と音がするまで、ペンの先端が皮膚から離れないよう注意してください。
- 1回目の「カチッ」という音におどろいて、ペンの先端を皮膚から離さないよう注意してください。

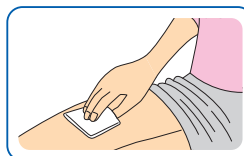
- 6** 約15秒後、もう一度「カチッ」と音がして薬液表示窓がピンク色に変わったのを確認し、ペンを直角に皮膚から離します。



注意 ペンの薬液表示窓全体が完全にピンク色になっていない場合は、主治医にご連絡ください。薬液の全量が注射できていない可能性があります。

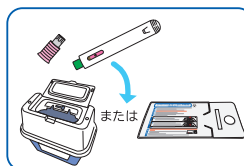
- 薬液表示窓の色が完全にピンク色になっていない場合は、他のペンで追加の注射をしないで、主治医にご連絡ください。
- 皮膚から一旦離すと、緑色の安全カバーが固定され、再使用できなくなります。安全カバー内の注射針には触れないでください。

- 7** 注射部位をアルコール綿で約10秒ほど押さえます。



- 注射部位をもむと腫れることがありますので、もまないでください。
- 腫れや出血が収まらない場合は、主治医にご連絡ください。

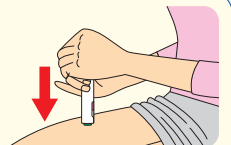
- 8** 注射終了後、ペンを廃棄します。



- 使い終わったペンは、分解したり、再利用せずに、取り扱いに十分注意して、すみやかに廃棄ボックスまたは廃棄袋に入れます。

参考 片手での注射が難しい時

片手で注射が難しい場合は、ペンを握っている反対の手のひらでペンを押さえて注射することもできます。



自己注射に関するよくあるご質問

決められた日に注射できなかった場合はどうすればよいですか？

▶主治医に連絡して、指示に従ってください。

あらかじめ決められた日に注射できないことが分かっている場合は、主治医に連絡して指示に従ってください。

注射は何時にすればよいですか？

▶注射する時間には特に決まりがありませんが、毎回一定の時間に注射をしましょう。

ご自身の生活のパターンからゆったりとした時間を選びましょう。

体調がすぐれない場合でも、予定通り注射してよいですか？

▶ご自身で判断せずに、必ず主治医に連絡して指示に従ってください。

注射したとき痛みを感じるがありますが、どうしたらよいでしょうか？

▶薬液が冷たいと刺激となって痛みを感じるがあります。まず、薬液が冷たくないか確認してください。

通常30分程度室温に置きますが、これは目安ですので、季節や室温の状況に応じて室内に置く時間を長くとってください。

注射の時に薬液が漏れてしまったら、どうしたらいいですか？

▶薬液が漏れた場合は、薬液が漏れた量を主治医に連絡して指示に従ってください。

注射の痛みが気になるのですが、どうしたらよいですか？

▶皮下脂肪の厚い部位は、痛みが少ないと言われています。

また、注射する部位の感覚を鈍くするために、氷や保冷剤で冷やすのも一つの方法です。

注射した部位が出血した場合はどうしたらよいですか？

▶アルコール綿で押さえてください。

それでも出血が収まらない場合は、主治医に連絡してください。

注射した部位がかゆくなったり、腫れたりした場合はどうしたらよいですか？

▶ご自身の判断で塗り薬などを使用せずに、主治医に連絡して指示に従ってください。

注射した日に入浴してもよいですか？

▶入浴はできますが、注射直後の入浴は避けてください。

また、身体を洗うときは注射部位を強くこすらないでください。

薬液が目に入った場合はどうしたらよいですか？

▶目を水で洗い流して、様子を見てください。

目に何か症状が現れた場合は、主治医に連絡して指示に従ってください。

災害時や停電など冷蔵庫が使用できない場合に保管していたお薬を使用しても良いのでしょうか？ どのように保管したらよいのでしょうか？

▶そのような場合は、主治医に連絡してください。

またはフリーダイヤルにお問い合わせください。

エタネルセプトBS皮下注シリンジ「日医工」は、箱に入れたまま保管した状態で安定性試験を実施しています。

保存条件	保存期間	結果
温度 40℃ 湿度 75%	14日間	品質が保たれていることを確認しています。

エタネルセプトBS皮下注「日医工」の
自己注射に関するお問い合わせに
看護師がサポートいたします。

24時間受付



0120-215-241

日常生活で気を付けること

このお薬を使用すると感染症にかかりやすくなる場合があります。日常生活の中で以下のことに注意し感染症にかからないようにしてください。

■風邪やインフルエンザの流行期は予防策をしてください

- 外出時にはマスクを使用しましょう
- できるだけ人混みを避けましょう
- 帰宅したら手洗いやうがい、消毒をしましょう



■家族が風邪をひいた時にはうつらないように

気を付けてください

- 風邪をひかれた方にマスクをしてもらいましょう
- できれば、寝室を別にしましょう

■手洗いやうがいをしっかりしてください

- 外出後だけでなく、できるだけまめにしましょう
- 手洗いは石鹸を使用していねいに洗い、清潔なタオルなどでよくふき取りましょう

■規則正しい生活を心がけてください

- 睡眠を十分とりましょう
- バランスの良い食事をしましょう



■ワクチンの予防接種を検討してください

- インフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンなどの接種について主治医に相談しましょう

関節リウマチとは

治療アルゴリズム
エタネルセプトの作用

バイオシミラー

有

効

性

治療
検査の
項目

副

作

用

投与の
しかた

よくある
ご質問と

